

健康

徳大病院
元気を支える医療



佐藤康史

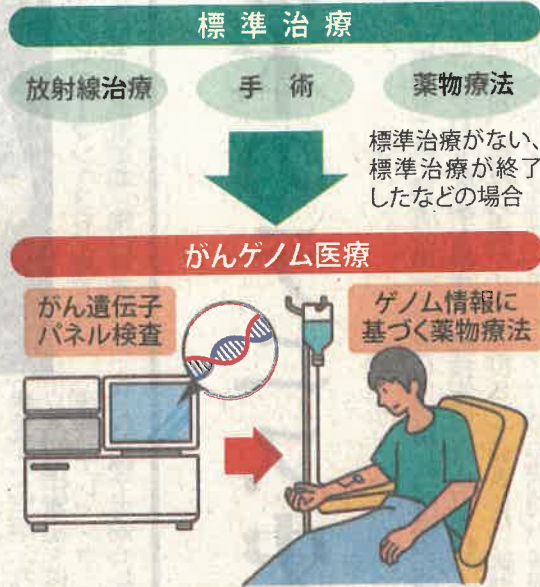
消化器内科

特任教授

がんゲノム医療とは、がんの遺伝子を調べてその人に合った治療法を探す医療です。遺伝子が傷

つづくとがんは発生します。遺伝子には細胞の働きを決める情報があります。遺伝子に傷がつくと細胞が正常に働けなくなり、がん細胞ができません。

治療では、まず「がん遺伝子パネル検査」でがん細胞を調べ、どの遺伝子に傷があるのかを確認します。



進化するがんゲノム医療

保険診療の対象拡大

まる可能性があります。25年未までに全国で12万人以上が検査を受けました。このような薬を「分子標的薬」と言います。がん細胞だけを攻撃するため、一般的な抗がん剤より副作用が少ないのが特徴です。

徳大病院では検査の結果を受けて専門家会議を開き、主治医や病理医、遺伝カウンセラーなどが連携して治療方針を検討します。本年度から、治療薬が明確であるなど一定の条件を満たす固形がんの場合は専門家会議を省略し、より迅速に最適な治療薬を処方できるようになっています。

がんゲノム医療は今も進化を続けています。今後はより多くの遺伝子を調べることによって診断や予後予測の精度が高まるだけでなく、さまざまな分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が開発される

ことが期待されます。標準治療のより早い段階で検査を受けられるような制度改正も待たれます。受診を検討される人は、かかりつけ医や院内のがん相談支援センターに相談してください。始まった2019年から